

## 若者のストリートファッションに対する着装意識

○杉山真理 小林茂雄\*

(\*共立女大)

【目的】 若者の服装には、一般的にしきたりや年齢などにとらわれずに自分の好みの服装を楽しむ傾向が見られる。特にストリートファッションにおいては、性別や従来の規範にとらわれない自由な着装行動が見られる傾向にある。また、服飾系専門学校の学生の着装行動の調査研究はほとんど見受けられないが、集団に対する帰属意識が強いためか、ストリートファッションを主流とした自由な着装行動が多く観察される。そこで本研究では、ストリートファッションをより着用している専門学校生と、比較対象として、専門学校生と同年代であるにもかかわらず、あまりストリートファッションを着用していない女子大生を対象に、ストリートファッションに対する着装意識の調査を行い、考察を試みた。

【方法】 専門学校生および女子大生を調査対象として、この年代の女性が遊び着として着用すると考えられる写真をストリートファッションおよび一般的なカジュアルウエアから選定し、それらの刺激につきSD法により評定させた。また、ストリートファッションに対する態度調査を合わせて実施した。解析方法には、因子分析法および平均値の差の検定を適用し、専門学校生群と女子大生群を対比し、その特徴を検討した。

【結果】 因子分析（固有値1.0以上、バリマックス回転）を行った結果、個性の因子、親近性の因子などが抽出され、これらの因子により、各刺激が特徴づけられた。専門学校生群は女子大生群に比べてストリートファッションをそれ程個性的ととらえず、親近性も女子大生群に比べて大きく、ストリートファッション、カジュアルウエアに対する反応に明瞭な差が見られた。